

# JSS 海外安全速報

## ニジェール西部で鉱山会社の中国人社員2人が誘拐される ＜サヘル地域：犯罪＞

6月6日（日）夜、ニジェール西部のティラベリ州ンバンガ地区（首都ニアメの西方約60km）で鉱山会社の中国人社員2人が武装集団に誘拐された。2人は、治安上のリスクが高い危険地域として事前に警告されていた地域にも関わらず、無視して立ち入っていた。

ティラベリ州のカティエラ知事は翌7日（月）、「中国人らは金鉱脈を探索する許可証を所持して同地域に入り、直ちにこの地域から出て行くよう武装集団に警告されたが、従わなかったため誘拐された模様だ」と語った。現在までのところ身代金要求や犯行声明などは出ていない。

同国では2007年7月6日にも、中国原子力建設公司（CNEC）の中国人技術者がトゥアレグ族反政府組織「ニジェール正義運動（MNJ）」に誘拐されたが、赤十字等の仲介により4日後に無事解放されている。

また、昨年10月27日には中南部のタウア州ビルニン・コーニ地区の農場で働く米国人男性が6人組の武装集団に誘拐され、4日後に隣国ナイジェリアの北部ソコト州でナイジェリア軍と米軍の合同部隊の救出作戦により無事解放された。

外国人の誘拐事件は、ニジェールと国境を接するマリやブルキナファソでも続発しており、今年4月8日にはマリ北東部のガオ州でフランス人ジャーナリストが国際テロ組織アルカイダに忠誠を誓う「イスラム・ムスリムの支援団（JNIM）」に誘拐された。

4月26日朝には、ブルキナファソ南東部のコンビエンカ県パマ自然保護区（首都ワガドゥグの東南東約250km）で、密猟防止のパトロール隊一行を武装集団が襲撃して警護の兵士2人を負傷させ、密猟反対のドキュメンタリー映像を撮るために同行していたスペイン人記者2人とアイルランド人の活動家1人の計3人を拉致した。翌27日には3人とも遺体となって発見され、JNIMが犯行声明を発している。

外国人誘拐が多発するアフリカ・中南米各国で、特に郊外へ陸路移動する際には事前に各種の安全対策を厳重に講じる必要がある（誘拐対策をはじめ、高リスク国での安全対策に関連する個別のご相談は弊社へ直接ご連絡下さい）。

以上

本レポート内容の全部または一部の転送・転載・第三者への提供を厳禁します。